

思いやりの積み重ね

牧之原市内中学校

四ノ宮さん

私はよく、身の周りのいろいろな風景を探しながら散歩をしています。見慣れている風景でも、自然はいつも心を和ませてくれます。この時間は、私にとって癒やしの時間です。

そんな自然の中でも、足元を見ると、ふと、目にとまるものがあります。無造作に投げ捨てられたプラスチック、アルミ缶、空になった食べ物の袋などです。美しい自然の中にゴミがあると、心が痛みます。みんなと生活している環境が人の手によって汚されていくことが、悲しさと疑問を生みます。

私が今、行っていることは、散歩をしながらゴミ拾いをするということです。ゴミ拾いをしながら気付いたことは、ゴミがまだ増え続けているということです。

一方、こんな姿を見かけます。地域の方々の中で、率先して時間を作り、ゴミを拾ってくださっている姿を見かけます。その姿を見ると同じだという共感や、ありがとうという思い、うれしさや感謝の気持ち溢れ出てきます。

しかし、それと同時に、なんでポイ捨てをした人達が拾わないのかという不満や悔しい気持ちが出てきて、その気持ち同士がぶつかり合います。実際にゴミが捨て続けられたら、環境はどうなっていくのでしょうか。

例えば、山に捨てたゴミは、山にいる動物達が、誤飲・誤食をして命を落とすケースは少なくありません。特に、プラスチックは分解されにくく、長い期間環境に残り、草旬物の生態系にも危害を及ぼしてしまうのだそうです。

このように、軽い気持ちでポイ捨てしたゴミは、動物生存を脅かし、植物の形態のバランスが崩れるなどの悪い影響を与えています。ため、この環境問題は、何としても解決しなければなりません。

そこで私は、ゴミを捨てている側の気持ちを聞いてほしいと思います。まずは、ポイ捨てをしている人達はどんな気持ちでポイ捨てをしているのかを知ることになりました。インターネットで比較しながら調べた結果、一番多かった意見として、「他のゴミが捨てられているから。」、「誰かが清掃してくれるから。」がありました。全体を見ると、マナーやモラルの低さや、罪悪感の薄さが目立ちました。たしかに、悪いことでも、大勢の人がしていると、その流れに乗ってしまうことはよく分かります。しかし、ポイ捨ては人だけでなく動物や環境にも多く

の影響を及ぼすため、そんな軽い気持ちでしていいことではないはずだと私は考えました。

牧之原市の道路愛護運動では、二時間でダンプカー一台分のゴミが集まったという事例を聞きました。これほど大きな行動は、今の私にはできませんが、少しずつゴミを拾いながら歩くことはできます。親に声を掛けました。ゴミの話をして、一緒に散歩し、歩きながらゴミを拾いました。環境のことを考えながら一緒に歩く中で、一つの新しい輪が広がったように感じました。

これからの具体的な取り組みとして、環境を良くしていきたいという自分の気持ちの確認や共有を図るため、地域に尽力されているボランティア活動でいろいろな考え方を学んだり、身近な缶拾いに参加したいと思います。現状を知ることから、新しい取り組みを工夫して見つけていきたいと思います。そして、私もこれからも、気付いてゴミを拾っていくように思います。

美しい環境を守るためには、行動が必要です。地域の方々が、自主的にゴミを拾っている姿から、私が思いやりを感じたように、取り組みを続けることで何かを感じ取ってくれるかもしれません。美しく住みやすい環境づくりは、一人一人が行う、思いやりの積み重ねであり、将来、美しい環境を受け継ぐための取り組みへと繋がっていくのだと

思います。

自ら築きあげていく小さな輪をきっかけに、大きな輪になっていくことを願って、行動し続けていきたいと思います。